

8 コミュニケーション能力の育成

(1) プログラム開発の背景

本道においては、多様な集団の中で、互いの考え方や気持ちを認め合い、尊重・協力し合うなど主体的によりよい人間関係を形成しながら、自己を成長させていくコミュニケーション能力の育成が求められている。

一方、少子高齢化・核家族化の進行や、情報化の進展などによる社会の急激な変化に伴い、子どもたちの生活体験の機会が減少し、コミュニケーション不足による人間関係の希薄化等の課題が見られ、とりわけ、児童生徒の問題行動等に関する調査（R3）では、高校生のいじめの様態として、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が 66.2%と最も多く、コミュニケーション不足により交友関係に課題が生じている状況が見られることからも、豊かな人間関係を形成する基盤となるコミュニケーション能力を育成する取組の充実が必要となっている。

のことから、道立青少年体験活動支援施設においても、高校生のスムーズな人間関係づくりに資するために、本テーマについて学校等への一層の普及を目指し、プログラムのさらなる充実・蓄積を進めしていく。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道教育推進計画 施策項目12 コミュニケーション能力の育成

「児童生徒が自分の考えをもち、表現しながら考え方を形成・深化させたり、よりよい人間関係を形成したりすることができるよう、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等における言語活の充実を図るとともに、コミュニケーション能力を高める学習活動の充実に向けた取組を推進します。」

(3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

森	高等学校生徒会フォーラム
	令和3年11月6日（土）～7日（日） (1泊2日) 実践発表および学校間交流、遺跡見学及び調査、ワールドカフェ、ワークショップなど
北見	高等学校 生徒会フォーラム
	令和3年11月27日（土） (オンライン) 学校紹介・実践交流、オンライン交流など
厚岸	高等学校生徒会フォーラム
	令和3年11月11日（木）～12日（金） (1泊2日) 講義、講話、演習（地域社会と学校とのつながりを考えた学校紹介パンフレットづくり）

高等学校生徒会フォーラム

1 事業のねらい

生徒会役員によるグループワークをとおして学校のリーダーとしての資質を向上させ、生徒会活動をきっかけとした生徒同士、学校と地域とのコミュニケーションの活性化に資する。

2 事業の概要

- 期日 R3.11.6(土)～7(日) 1泊2日
- 対象 高校の生徒会役員及び地域課題解決に取り組む高校生と生徒会担当教諭
- 人数 6校 37名
- 場所 ネイパル森、函館市垣ノ島遺跡

3 プログラム

	8:50		10:00		11:00		12:00		12:40		16:40		18:00		18:50		19:50		22:00	
1 日 目			開 会 式	交 流	活動① 活動 紹介	昼 食			活動② 南茅部高校生徒会長の話 垣ノ島遺跡の見学		活動③ 遺跡等の 調査	夕 食	活動④ ワールド カフェ			入浴など			就 寝	
2 日 目	起 床	朝 食	活動⑤ ワークショップ		発表 交流	閉 会 式														

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■現役高校生の話を聞く場の設定

- ・縄文文化交流センターと連携した生徒会活動について紹介してもらい、学校と地域とが連携し、地域の活性化のための取組に高校生が参画することの意義を学習できるようにした。

■オンライン参加枠の設定

- ・オンライン会議システムを活用して遠方の学校も参加できる環境を整え、参加者同士が多様な見方や考え方方に触れられるようにした。

■Google Classroom を活用した意見交流

- ・参加者がクラウド上のデータに携帯端末から質問や感想等を入力し、共有することによって交流を深められるようにした。

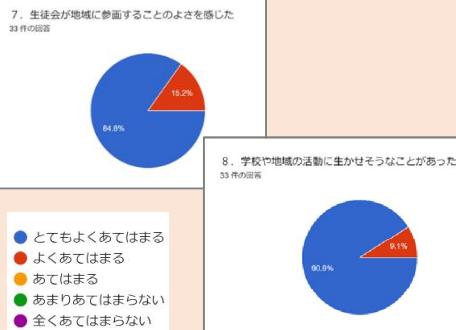


縄文遺跡で高校生の活動について聞く



オンライン併用で活動計画を交流

5 事業の評価



6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 活動が進むにつれて他校の生徒や引率者と進んで意見交流する姿が見られ、多様な見方・考え方方に触れる機会を提供できた。
- 縄文遺跡を訪れて体験したことが以後の活動で話題にならなかった。現地訪問の目的を伝え、体験後の振り返りを丁寧に行うことが必要である。

■参加者アンケート

- ・高校生が地域に参画することの意義を感じることができた。
- ・学校や地域の活動に生かせる話題が多かった。

■参加者の声

- ・他校の活動を参考に地域との交流をしていきたい。(生徒)
- ・今後の行事を考える上でとても参考になった。(引率)



企画のポイント

遠方の学校でも参加しやすい
会議システムの活用とクラウド上での意見や感想等の交流

高等学校生徒会フォーラム

1 事業のねらい

高等学校の生徒会役員等が集まり、実践的な話し合いの方法や課題解決の手法の体験と交流を通して、リーダーとしての資質の向上や生徒会活動の活性化を図る。

2 事業の概要

- 期日 R3.11.27(土) 1日日程
- 対象 高校の生徒会役員および生徒会担当教諭
- 人数 9校 75名
- 場所 オンライン開催 (Web会議システムZoomを使用)

3 プログラム

日時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
11/27 (土)	9:00開始	開会	アイス ブレイク 合意形成 ゲームなど	学校紹介 実践交流	昼 休憩	オンライン 交流	閉 会	15:30終了予定		

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■オンラインを活用した高校間の交流

- ・高等学校がコロナ渦でも安心して参加し交流を図るために、Web会議システムZoomを活用した。自校を紹介するためのプレゼンの時間を全参加校に設定し、実践的なアウトプットの機会を提供するとともに、多数の実践事例を知ることで自校の活動をさらに活性化するための機会を提供した。



50以上の端末を接続して交流

■テーマ別の交流機会の設定

- ・「コロナ渦での活動」「SDGsの取組」「スマホの扱い方」など参加者にとって関心の高いテーマを設定し、積極的な話し合いが行われるようにした。その際、ブレイクアウトルームを生徒用と担当者用にわけることで、生徒だけでなく担当者同士の交流もできるようにした。



各校の実践をプレゼン

5 事業の評価



■IKR 調査による変化

- ・「積極性」「明朗性」「思いやり」が0.3P向上
- ・全体的にマイナス変化はないが、「自己規制」のみ変化なし

■参加者の声

- ・自校と近隣の高校を比較するよい機会になった。
- ・他校と意見交流をすることでおもしろい発見や参考になることがたくさんあった。

6 ねらいを踏ました成果と課題

- 「積極性」「明朗性」が向上していることから、オンラインでの交流や実践発表の体験などを通して、自分の意見を積極的に伝えるという意識が向上したと考えられる。
- 「自己規制」に変化がなかったことから、可能な限りオンラインの交流や活動のみではなく、日常生活を見直す機会となる宿泊を伴う体験活動が必要と考えられる。



企画のポイント

コロナ渦でも交流を図り生徒会活動の活性化に役立てることができるオンラインの活用

高等学校生徒会フォーラム

1 事業のねらい

地域社会の実態に応じた生徒会活動に主体的に取り組めるように、学校と地域とのつながりについて話し合いなどを行い、生徒会活動活性化の一助とする。

2 事業の概要

- 期日 R3.11.11(木)～12(金) 1泊2日
- 対象 釧路・根室管内の高等学校生徒会役員、常任委員、生徒会組織で活動している生徒、生徒会担当教諭
- 人数 9校 50名 (高校生40名、引率教諭10名)
- 場所 ネイパル厚岸
- 協力 清水たつや 氏 (株式会社エゾ・プランニング)

3 プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1 日 目							受 付	開 会 式	【講義】 高等学校の 生徒会活動 とは？	【講話】 地域社会づくり とは？ 【ワーク①】 学校の特色とは？ 自校を見つめよう！	夕 食	【ワーク②】 学校と地域の つながりを見 つめよう！	入浴 ・ 交流	就 寝		
2 日 目	起 床	朝 食	【ワーク③】 学校紹介パンフレットを つくろう！			昼 食	発 表 ・ 講 評	閉 会 式								

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■学校に求められる「社会参画」について考える

- ・地域づくりに尽力している講師の活動を知り、地域に関わる活動の魅力や楽しさを学ぶとともに、社会参画のイメージを持たせるようにした。
- ・学校と地域の魅力や特色、資源についてウェビングマップ等で可視化し、学校や生徒から地域社会へどのようなアプローチができるかを考えられるようにした。

■生徒発信の学校紹介パンフレットで地域とのつながりを深める

- 学校や地域を紹介するパンフレットの企画案づくりを通して、学校と地域社会とのつながりや地域づくりについて考え、生徒が主体となった社会参画や地域と連携・協働した生徒会活動へつながるようにした。

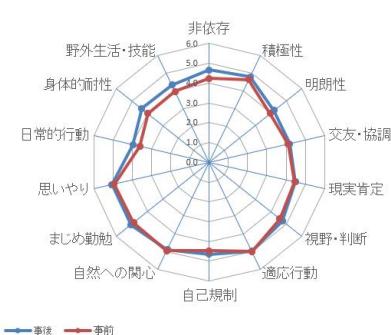


他校の生徒と学校や地域の
魅力・特色について考える



学校紹介パンフレット案を
発表する生徒

5 事業の評価



■IKR 調査による変化

- ・「非依存」「日常的行動」が0.4P、「積極性」「明朗性」「視野・判断」が0.2P向上
- ・「自然への関心」が0.1P低下

■参加者の声

- ・魅力や特色を踏まえた生徒会活動を実践し、学校や地域を活性化させたい（生徒）
- ・他校の生徒と交流することで、自校を客観的に捉える良い機会となった（引率教諭）

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「非依存」「積極性」「明朗性」「視野・判断」が向上したことから、地域社会の課題解決について考え、生徒会活動をより主体的・実践的な取組みにしたいという意欲喚起につながったと考えられる。
- 「交友・協調」に大きな変化がなかったことから、多くの他校生徒と親交が深められるよう交流時間を増やす等、参加人数を考慮しプログラムを設定する必要がある。



企画のポイント

学校と地域の魅力や特色を理解し、学校と地域とのつながりを深める

本テーマにおけるIKR調査結果(実施した全施設を集計)

生きる力の向上		事前 52.9 点	→	事後 55.3 点	(+ 2.4 点)
質問数・得点範囲		①心理的・社会的能力の変容 14問 (得点範囲14~84点)	②徳育的能力の変容 8問 (得点範囲8~48点)	③身体的能力の変容 6問 (得点範囲6~36点)	①~③の合計 「生きる力」の変容 28問 (得点範囲28~168点)
全有効回答の 総得点の平均値		28.0 27.5 27.0 26.5 26.0 25.5	17.2 17.0 16.8 16.6 16.4	11.0 10.5 10.0 9.5 9.0	56.0 55.0 54.0 53.0 52.0 51.0
数値的推移		事前→事後 + 1.2	事前→事後 + 0.4	事前→事後 + 0.8	事前→事後 + 2.4
能力	調査項目	事前	事後	増減	
生きる力 (総合)		52.9	55.3	2.4	
心理的・社会的能力		26.4	27.6	1.2	
非依存性	1. いやなことは、いやとはつきり言える 15. 小さな失敗をおそれない	1.9 1.7	2.1 1.9	0.3	
積極性	11. 自分からすすんで何でもやる 25. 前向きに物事を考えられる	1.9 1.9	2.1 2.0	0.2	
明朗性	5. だれにでも話しかけることができる 19. 失敗しても立ち直るのがはやい	1.7 1.8	1.9 1.8	0.3	
交友・協調	7. 多くの人に好かれている 21. だれとでも仲よくできる	1.6 2.0	1.6 2.0	0.1	
現実肯定	9. 自分のことが大好きである 23. だれにでも、あいさつができる	1.5 2.3	1.6 2.3	0.1	
視野・判断	3. 先を見通して、自分で計画が立てられる 17. 自分で問題点や課題を見つけることができる	1.7 2.0	1.9 2.1	0.2	
適応行動	8. 人の話をきちんと聞くことができる 22. その場でふさわしい行動ができる	2.2 2.0	2.2 2.1	0.1	
徳育的能力		16.7	17.1	0.4	
自己規制	14. 自分かってな、わがままを言わない 28. お金やモノのむだ使いをしない	1.9 1.8	1.9 1.9	0.1	
自然への関心	6. 花や風景などの美しいものに感動できる 20. 季節の変化を感じることができる	2.1 2.2	2.2 2.2	0.0	
まじめ勤勉	12. いやがらずに、よく働く 26. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる	2.0 2.3	2.0 2.4	0.1	
思いやり	2. 人のために何かをしてあげるのが好きだ 16. 人の心の痛みがわかる	2.2 2.1	2.3 2.2	0.2	
身体的能力		9.8	10.6	0.8	
日常的行動力	13. 早寝早起きである 27. からだを動かしても、疲れにくい	1.5 1.5	1.6 1.6	0.3	
身体的耐性	4. 暑さや寒さに、まけない 18. とても痛いケガをしても、がまんできる	1.7 1.8	1.8 1.9	0.3	
野外技能・生活	10. ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える 24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる	1.8 1.6	1.9 1.8	0.2	